

No. 1

学力確認結果の要旨	
学位申請者 氏名	松岡 正信
審査委員	主査 鹿児島 大学 教授 川村 軍蔵
	副査 鹿児島 大学 教授 不破 茂
	副査 鹿児島 大学 教授 井上 喜洋
	副査 鹿児島 大学 准教授 安樂 和彦
	副査 佐 賀 大学 准教授 濱 洋一郎
審査協力者	
実施年月日	平成 1 9 年 7 月 2 6 日
試験方法 (該当のものを○で囲むこと。) <input checked="" type="radio"/> 口答・筆答	
<p>主査及び副査は、平成 1 9 年 7 月 2 6 日の公開審査会において学位申請者に対して、学位申請論文の内容について説明を求め、関連事項について試問を行った。具体的には別紙のような質疑応答がなされ、いずれも満足できる回答を得ることができた。</p> <p>また、口答により外国語 (英語) の学力を確認した。</p> <p>以上の結果から、審査委員会は申請者が大学院博士課程修了者と同等以上の学力ならびに識見を有するものと認め、博士 (学術) の学位を与えるに十分な資格を有するものと認めた。</p> <p>なお、本研究の内容は発生学、解剖学、感覚生理学および海洋学の分野に亘って学際的であり、申請者の希望でもあることから博士 (学術) の学位が適当と認めた。</p>	

学位申請者 氏 名	松岡 正信
<p>審査会における質疑応答は以下のとおりであった。</p> <p>質問：マイワシ漁場を形成する海洋条件はどのようなもので、それはどのように変動するのか。</p> <p>回答：漁場の海洋条件は黒潮の動きで変動するが、海洋学者と共同研究をしていないので漁場を形成する海洋条件を明らかにしていない。</p> <p>質問：中国大陸沖にもマイワシが分布すると思うが、同海域の資源量はどのくらいか。</p> <p>回答：中国大陸沖でマイワシが漁獲された記録はないので、中国大陸沖にマイワシは分布しないと考えている。</p> <p>質問：薩南海域はマイワシの重要な漁場であるか。</p> <p>回答：マイワシ仔魚は塩分耐性が高いが水温耐性は低い。黒潮の影響を直接受ける薩南海域は水温が高く、マイワシ仔魚の生残に好適な海域とはいえない。また、マイワシ親魚は痩せていて、親魚にとっても好適な海域ではないようだ。</p> <p>質問：マイワシとカタクチイワシは同一漁場で競合するか。</p> <p>回答：カタクチイワシは混獲魚として調べた程度なので質問に答えるだけのデータをもたない。</p> <p>質問：体側の遊離感丘が扁平になると書いているが、どのように扁平なのか。</p> <p>回答：表皮からの高さのことで、立体的に扁平という意味である。</p> <p>質問：J. R. Hunterらによる米国西岸海域の anchovy 仔魚の研究は先駆的なもので、マイワシの初期生活史の研究に参考になると思うが、彼らの一連の論文を読んだか。</p> <p>回答：そのような研究が行われたことは知っているが、論文は読んでいない。</p> <p>質問：資源量変動のメカニズムはマイワシとカタクチイワシでどのように違うのか。</p> <p>回答：両種とも資源量変動のメカニズムは解明されていない。</p>	